

## 〔資料〕

## 旅行者新奇性に関する心理学的考察

吉 川 茂

## I 目的

なぜ人々は旅行をするのか、観光を好むのかという旅行者モチベーション (tourist motivation) の問題は、旅行者行動を心理学の視点から捉えるときに最も基本的な問題として位置づけられる。とりわけ新奇性 (novelty) 欲求は、旅行者行動の動機として理論的にも実証研究的にも重要視されている。つまり日常にない新奇なものへの興味・欲求によって人々は旅行に駆り立てられるという仮説に基づいて研究が進められているのである。

Tae-Hee Lee & Crompton, J. (1992) は「観光における新奇性欲求の測定 (Measuring Novelty Seeking in Tourism)」と題する論文のなかで、21項目よりなる旅行者新奇性尺度を作成して信頼性および妥当性を検証した。尺度は4つの次元、スリル (Thrill)、日常性からの変化 (Change from Routine)、退屈緩和 (Boredom-Alleviation)、驚き (Surprise) により構成され、佐々木 (2000) により邦訳されているが、その邦訳版尺度についての詳細な検討はまだなされていない。ここでは旅行者新奇性尺度の分析を通じて、旅行動機としての新奇性概念の内容を考察することを第一の目的とする。

つぎに旅行者新奇性欲求と類似した概念に Sensation-Seeking がある。寺崎・塩見ら (1987) によれば Sensation-Seeking は「新奇で変化する感覚や経験に対する要求についての、またそのような経験を得るためには少々の社会的リスクや身体的リスクをいとわないパーソナリティ特性」と定義されている。旅行という場合に限

らず、より多くの種類、状況、手段において新奇性を探求しようとするのが Sensation-Seeking であるといえる。よって旅行者新奇性欲求について Sensation-Seeking との比較を通じて考察することを第二の目的としたい。

## II 方法

Lee & Crompton (1992) の21項目からなる旅行者新奇性尺度の佐々木 (2000) による邦訳版の項目の一部を変更して用いた。唯一の変更箇所は「私は、春の水の多い時期に..」を日本の気象状況を考慮して「春の」の部分削除した。回答は「非常に賛成」から「非常に反対」までの5ポイントスケールとし、より高い得点がより高い旅行者新奇性欲求を示す方向で得点化されるようになっている。

寺崎・塩見ら (1987) は、Zuckerman, M., Eysenck, S., & Eysenck, H. J. (1978) の尺度を原型として38項目、4因子からなる日本語版 Sensation-Seeking Scale を作成した。これは Sensation-Seeking に関して対称的に記述された2つの文章の一方を強制的に選択させる形式となっている。

対象は大阪府下の4年制私立大学の2年生51名 (男子28名、女子23名) で、講義時間中に上記の佐々木による邦訳版・旅行者新奇性尺度と寺崎・塩見らによる日本語版 Sensation-Seeking Scale の2つを集団施行した。

### Ⅲ 結果と考察

まず旅行者新奇性尺度の各項目の回答状況を調べ、Table 1 に性別、選択肢ごとの回答者数と比率を示した。逆転項目はなく、「賛成」の極への回答がより高い旅行者新奇性欲求を表す。回答傾向を概観すると、回答は「賛成」の方向にかなり集中あるいは偏奇していることがわかる。例えば21項目全体の「すこし賛成」「非常に賛成」の両選択肢への回答率の平均は73.2% (SD=21.44) であり、約4分の3の割合で旅行者新奇性が選択・肯定されたという結果である。このことは人々は新しいもの、珍しい

ものを求め期待して旅行に出掛ける、つまり新奇性欲求が旅行動機の最も重要なものの一つであることを示唆するものである。これとは対照的に、「非常に反対」「すこし反対」の両選択肢への回答は平均12.1% (SD=16.40) にすぎなかった。つまり旅行の動機としての新奇性欲求を否定する回答は少ないという結果である。ただし標準偏差の値からもわかるように項目によるばらつきは大きい。「反対」への回答が際立って多いのは次の3項目だけである。

「15. 私は、水量の多い時期に、自然の河川の真ん中で筏に乗りたいと思う」については「反対」合計が66.7%あり、「賛成」合計は17.7

Table 1 旅行者新奇性尺度の各項目の選択肢への反応実数と比率

	1. 非常に 反対	2. すこし 反対	3. どちらと もいえない	4. すこし 賛成	5. 非常に 賛成
1. 私は、旅行では、少々ぎよつとするようなことを時々したいと思う。(ス)					
m	0 (0)	3 (10.7)	4 (14.3)	8 (28.6)	13 (46.4)
f	0 (0)	0 (0)	1 (4.3)	14 (60.9)	8 (34.8)
total	0 (0)	3 (5.9)	5 (9.8)	22 (43.1)	21 (41.2)
2. 私は、新しいことを探索できるようなところに自分がいたいと思う。(日)					
m	0 (0)	1 (3.6)	3 (10.7)	7 (25.0)	17 (60.7)
f	0 (0)	0 (0)	3 (13.0)	8 (34.8)	12 (52.2)
total	0 (0)	1 (2.0)	6 (11.8)	15 (29.4)	29 (56.9)
3. 私は、退屈感をなくするような旅行をしたい。(退)					
m	0 (0)	0 (0)	4 (14.3)	2 (7.1)	22 (78.6)
f	1 (4.3)	0 (0)	0 (0)	1 (4.3)	21 (91.3)
total	1 (2.0)	0 (0)	4 (7.8)	3 (5.9)	43 (84.3)
4. 私は、予期しないことが起きるように、旅行の細かい計画は立てない。(驚)					
m	4 (14.3)	6 (21.4)	4 (14.3)	6 (21.4)	8 (28.6)
f	0 (0)	8 (34.8)	6 (26.1)	7 (30.4)	2 (8.7)
total	4 (7.8)	14 (27.5)	10 (19.6)	13 (25.5)	10 (19.6)
5. 私は、旅行では、挑戦的なことをするのを楽しんでいる。(ス)					
m	0 (0)	1 (3.6)	3 (10.7)	10 (35.7)	14 (50.0)
f	0 (0)	2 (8.7)	6 (26.1)	10 (43.5)	5 (21.7)
total	0 (0)	3 (5.9)	9 (17.6)	20 (39.2)	19 (37.3)
6. 私は、旅行では、新しい変わったことを経験したいと思う。(日)					
m	0 (0)	0 (0)	2 (7.1)	7 (25.0)	19 (67.9)
f	0 (0)	1 (4.3)	1 (4.3)	3 (13.0)	18 (78.3)
total	0 (0)	1 (2.0)	3 (5.9)	10 (19.6)	37 (72.5)
7. 私は、旅行では、型にはまらない時間を次々に過ごすようにしたい。(退)					
m	0 (0)	3 (10.7)	6 (21.4)	3 (10.7)	16 (57.1)
f	0 (0)	0 (0)	1 (4.3)	7 (30.4)	15 (65.2)
total	0 (0)	3 (5.9)	7 (13.7)	10 (19.6)	31 (60.8)
8. 私は、予期できないような旅行が好きだ。(驚)					
m	2 (7.1)	2 (7.1)	10 (35.7)	5 (17.9)	9 (32.1)
f	0 (0)	1 (4.3)	3 (13.0)	13 (56.5)	6 (26.1)
total	2 (3.9)	3 (5.9)	13 (25.5)	18 (35.3)	15 (29.4)

9. 旅行では、少々びっくりさせられるようなことが面白い。(ス)						
m	1 ( 3.6)	0 ( 0 )	2 ( 7.1)	8 (28.6)	17 (60.7)	
f	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	6 (26.1)	17 (73.9)	
total	1 ( 2.0)	0 ( 0 )	2 ( 3.9)	14 (27.5)	34 (66.7)	
10. 私は、旅行では、自分の環境にあるのとは違う風習や文化を経験したい。(日)						
m	0 ( 0 )	1 ( 3.6)	1 ( 3.6)	6 (21.4)	20 (71.4)	
f	0 ( 0 )	0 ( 0 )	1 ( 4.3)	6 (26.1)	16 (69.6)	
total	0 ( 0 )	1 ( 2.0)	2 ( 3.9)	12 (23.5)	36 (70.6)	
11. 私は、変化のない日常的な仕事に退屈しているので、旅行をしたい。(退)						
m	0 ( 0 )	3 (10.7)	3 (10.7)	6 (21.4)	16 (57.1)	
f	1 ( 4.3)	0 ( 0 )	0 ( 0 )	6 (26.1)	16 (69.6)	
total	1 ( 2.0)	3 ( 5.9)	3 ( 5.9)	12 (23.5)	32 (62.7)	
12. 私は、事前の計画ルートを一切考えない旅行に出かけたいと思う。(驚)						
m	5 (17.9)	4 (14.3)	2 ( 7.1)	6 (21.4)	11 (39.3)	
f	0 ( 0 )	3 (13.0)	4 (17.4)	9 (39.1)	7 (30.4)	
total	5 ( 9.8)	7 (13.7)	6 (11.8)	15 (29.4)	18 (35.3)	
13. 私は、旅行では、危険な感じを経験するのを楽しんでいる。(ス)						
m	2 ( 7.1)	9 (32.1)	7 (25.0)	7 (25.0)	3 (10.7)	
f	1 ( 4.3)	10 (43.5)	8 (34.8)	3 (13.0)	1 ( 4.3)	
total	3 ( 5.9)	19 (37.3)	15 (29.4)	10 (19.6)	4 ( 7.8)	
14. 私は、旅行では、何か新しいことを経験させてくれる環境変化を楽しむ。(日)						
m	0 ( 0 )	0 ( 0 )	3 (10.7)	6 (21.4)	19 (67.9)	
f	0 ( 0 )	1 ( 4.3)	2 ( 8.7)	6 (26.1)	14 (60.9)	
total	0 ( 0 )	1 ( 2.0)	5 ( 9.8)	12 (23.5)	33 (64.7)	
15. 私は、水量の多い時期に、自然の河川の真ん中で筏に乗りたいたいと思う。(ス)						
m	12 (42.9)	6 (21.4)	7 (25.0)	2 ( 7.1)	1 ( 3.6)	
f	6 (26.1)	10 (43.5)	1 ( 4.3)	4 (17.4)	2 ( 8.7)	
total	18 (35.3)	16 (31.4)	8 (15.7)	6 (11.8)	3 ( 5.9)	
16. 理想の旅行は、私がかこれまで見たこともないものが見られることだ。(日)						
m	0 ( 0 )	1 ( 3.6)	4 (14.3)	4 (14.3)	19 (67.9)	
f	0 ( 0 )	1 ( 4.3)	0 ( 0 )	7 (30.4)	15 (65.2)	
total	0 ( 0 )	2 ( 3.9)	4 ( 7.8)	11 (21.6)	34 (66.7)	
17. 私は、スリルのある活動を楽しむ。(ス)						
m	0 ( 0 )	2 ( 7.1)	14 (50.0)	5 (17.9)	7 (25.0)	
f	1 ( 4.3)	1 ( 4.3)	6 (26.1)	9 (39.1)	6 (26.1)	
total	1 ( 2.0)	3 ( 5.9)	20 (39.2)	14 (27.5)	13 (25.5)	
18. 旅行の一部分には新しいことを発見する感じがあってほしい。(日)						
m	0 ( 0 )	0 ( 0 )	2 ( 7.1)	5 (17.9)	21 (75.0)	
f	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	4 (17.4)	19 (82.6)	
total	0 ( 0 )	0 ( 0 )	2 ( 3.9)	9 (17.6)	40 (78.4)	
19. 私は、旅行では、冒険を求める。(ス)						
m	0 ( 0 )	2 ( 7.1)	8 (28.6)	8 (28.6)	10 (35.7)	
f	0 ( 0 )	1 ( 4.3)	3 (13.0)	11 (47.8)	8 (34.8)	
total	0 ( 0 )	3 ( 5.9)	11 (21.6)	19 (37.3)	18 (35.3)	
20. 私は、旅行では、未知のものを探索したいという強い衝撃を感じる。(日)						
m	0 ( 0 )	2 ( 7.1)	6 (21.4)	5 (17.9)	15 (53.6)	
f	0 ( 0 )	3 (13.0)	3 (13.0)	10 (43.5)	7 (30.4)	
total	0 ( 0 )	5 ( 9.8)	9 (17.6)	15 (29.4)	22 (43.1)	
21. 私は、冒険的なところへ旅行したい。(日)						
m	0 ( 0 )	1 ( 3.6)	10 (35.7)	7 (25.0)	10 (35.7)	
f	1 ( 4.3)	3 (13.0)	4 (17.4)	10 (43.5)	5 (21.7)	
total	1 ( 2.0)	4 ( 7.8)	14 (27.5)	17 (33.3)	15 (29.4)	

(ス)：スリル (日)：日常性からの変化 (退)：退屈緩和 (驚)：驚き

%でしかなかった。

「13. 私は、旅行では、危険な感じを経験するのを楽しんでいる」については「反対」合計は43.2%、「賛成」合計は27.4%となった。

「4. 私は、予期しないことが起きるように、旅行の細かい計画は立てない」については、「反対」合計が35.3%、「賛成」合計が45.1%という結果であった。

これらのことから、旅行者は新奇性を求めて旅行に出掛けるという傾向は全体として十分に確認できたが、これは精神的な発見や驚きを求めるという意味における新奇性欲求であり、けっして身体的な危険や無謀な行動を欲しているわけではないことが理解される。旅行（観光）は選択的な消費行動の一種であるから、できるだけ現実的な危険を回避しようとするのは当然の合理的な選択であるともいえよう。

Table 2 には、旅行者新奇性尺度の4つの次元ごとの平均、標準偏差、レンジが示される。各次元ごとに含まれる項目数が異なるので1項目に換算して平均化すると、「スリル」3.67、「日常性からの変化」4.43、「退屈緩和」4.50、「驚き」3.57となる。さきの考察と同様に、ある程度の危険性を伴う「スリル」と、計画性の欠如に起因する「驚き」の2つの次元の得点の低いことが認められる。これら危険性や無計画性といった要素は、旅行者新奇性の概念の辺縁的なものであるのか、または新奇性の程度が極端に強いものであるのか、これら次元の低得点をいかに解釈すべきかは今後の検討課題として残される。

Table 3 は旅行者新奇性尺度の因子パターンを示したものである。Lee & Crompton による尺度作成過程ですでに因子分析がなされてお

Table 2 旅行者新奇性尺度の4次元分類の平均と標準偏差

	Mean	S.D.	range
スリル（7項目）	25.7	4.07	15-34
日常性からの変化（8項目）	35.4	4.52	22-40
退屈緩和（3項目）	13.5	1.74	7-15
驚き（3項目）	10.7	2.89	3-15

り、4次元はそこで命名されたものである。したがって再度因子分析を行うべき必然性は希薄であるかもしれないが、改めて邦訳版における因子構造を確認するとともに、それを通して旅行者新奇性の因子を独自に探る目的で実施した。

共通性の初期値をSMCとした主因子法を実行し、さきの尺度が4次元であったことと項目数が21であることを考慮して4因子解を求めた。全体に対する4因子の累積寄与率は59.3%、バリマクス回転後 Table 3 の因子負荷量が算出された。因子負荷量 | 0.50 | でマークしたところ、因子Iに8項目、因子IIに5項目、因子IIIに5項目、因子IVに2項目が含まれた。なお項目2の因子負荷量は | 0.37 | で基準に達しなかった。

Table 4 には各因子に含まれる項目と命名を試みた因子名が示される。因子Iでは、未知な

Table 3 旅行者新奇性尺度のバリマクス回転後の因子パターン

	因子I	因子II	因子III	因子IV	共通性
項目16	0.830	0.043	-0.106	-0.018	0.702
項目3	0.817	0.092	-0.154	0.177	0.731
項目19	0.723	0.255	0.381	0.068	0.738
項目21	0.689	0.216	0.286	0.021	0.604
項目14	0.673	0.433	-0.064	0.056	0.648
項目10	0.575	0.296	-0.188	0.113	0.466
項目20	0.521	0.442	0.240	0.041	0.526
項目11	0.519	-0.014	0.018	0.283	0.349
項目1	0.018	0.811	0.298	0.070	0.752
項目5	0.013	0.751	0.033	0.258	0.649
項目18	0.460	0.669	0.020	-0.250	0.722
項目6	0.512	0.639	0.122	0.060	0.688
項目9	0.250	0.520	0.342	-0.051	0.452
項目12	-0.099	-0.024	0.803	-0.151	0.678
項目8	0.068	0.281	0.789	0.139	0.725
項目7	-0.013	0.221	0.678	-0.099	0.518
項目13	0.273	0.076	0.587	0.381	0.570
項目4	-0.373	0.074	0.501	0.286	0.477
項目17	0.218	0.372	-0.079	0.681	0.656
項目15	0.100	-0.085	0.189	0.641	0.464
項目2	0.332	0.284	0.242	-0.370	0.387
説明分散	4.628	3.306	3.004	1.565	12.503

Table 4 因子ごとの項目内容

因子 I	非日常の希求
項目16.	理想の旅行は、私がこれまで見たこともないものが見られることだ。
項目3.	私は、退屈感をなくするような旅行をしたい。
項目19.	私は、旅行では、冒険を求める。
項目21.	私は、冒険的なところへ旅行したい。
項目14.	私は、旅行では、何か新しいことを経験させてくれる環境変化を楽しむ。
項目10.	私は、旅行では、自分の環境にあるのとは違う風習や文化を経験したい。
項目20.	私は、旅行では、未知のものを探索したいという強い衝撃を感じる。
項目11.	私は、変化のない日常的な仕事に退屈しているので、旅行をしたい。
因子 II	情動体験の希求
項目1.	私は、旅行では、少々ぎょっとするようなことを時々したいと思う。
項目5.	私は、旅行では、挑戦的なことをするのを楽しんでいる。
項目18.	旅行の一部には新しいことを発見する感じがあってほしい。
項目6.	私は、旅行では、新しい変わったことを経験したいと思う。
項目9.	旅行では、少々びっくりさせられるようなことが面白い。
因子 III	意外性の希求
項目12.	私は、事前の計画ルートを一切考えない旅行に出かけたいと思う。
項目8.	私は、予期できないような旅行が好きだ。
項目7.	私は、旅行では、型にはまらない時間を次々に過ごすようにしたい。
項目13.	私は、旅行では、危険な感じを経験するのを楽しんでいる。
項目4.	私は、予期しないことが起きるように、旅行の細かい計画は立てない。
因子 IV	スリル・危険性の希求
項目17.	私は、スリルのある活動を楽しむ。
項目15.	私は、水量の多い時期に、自然の河川の真ん中で筏に乗りたいと思う。
項目2.	私は、新しいことを探索できるようなところに自分がいたいと思う。

もの、異質なもの、新しいものを求めて、慣れ親しんだ日常生活から離れたい、脱したいとの意味を各項目から読み取ることができよう。そこで因子 I を「非日常の希求」因子とした。ここでの「非日常」とは既知の、平凡な、退屈した、繰り返しの多い「日常」と対極的な意味内

容をもつ。Lee & Crompton による尺度の 4 次元分類と比較すると「日常性からの変化」からの 5 項目が含まれて大半を占めており、残りは「退屈緩和」から 2 項目、「スリル」から 1 項目が入っている。

因子 II は強度の刺激を受けて、あるいは自らが刺激的な行動をとることによって、新鮮な驚き、強い情動を得たいという欲求が示されていると考えられることから、「情動体験の希求」因子としてまとめた。項目 18 と項目 6 は因子 I にも高い負荷をもっており、因子 II から省いてもよいかもしれない。そして残りの 3 項目だけに限定したほうが因子 II の性格はよりいっそう輪郭が明瞭になる。すなわち精神的スリルを味わいたいとの欲求がこの因子の中核として認められるのである。

因子 III は、予期や計画をしていないハプニングを期待する内容の項目が多く集まっている。よって「意外性の希求」因子と名付けるのが妥当であろう。Lee & Crompton 尺度の「驚き」項目が 5 つのうち 3 つの項目を占めている。

因子 IV はまさに身体的リスクを伴う危険な状況を楽しみたいとの意味が濃厚にあると判断され「スリル・危険性の希求」因子とした。2 項目のみで構成されるが、いずれも原版尺度では「スリル」に含まれていた項目である。

以上の因子分析の解釈から、旅行者が求める新奇性とは、単調な毎日の生活パターンを離脱して、未知・異質・変化や新鮮な驚きを体験したり、意外性やハプニングを期待したり、さらにはスリルも楽しみたいという側面から成り立つものと結論づけられる。

つぎに Table 5 には Sensation-Seeking Scale への回答結果が項目ごと、男女別に選択者数と比率が示されている。4 つの因子は① TAS (Thrill and Adventure Seeking) : 危険やスリルを伴う活動への指向性、② ES (Experience Seeking) : 未知の経験への指向性、③ Dis (Disinhibition) : 規制から逸脱することを求める傾向、④ BS (Boredom Susceptibility) : 退屈さを感じやすい傾向と説明されている。

Table 5 Sensation-Seeking Scale への回答結果

TAS (Thrill and Adventure Seeking)	m	f	total
1 a 水上スキーのようなスポーツをしてみたい。	24 (85.7)	17 (73.9)	41 (80.4)
b 水上スキーのようなスポーツをしてみたいとは思いません。	4 (14.3)	6 (26.1)	10 (19.6)
2 a サーフィン(波のり)をしてみたい。	23 (82.1)	15 (65.2)	38 (74.5)
b サーフィンをしてみたいとは思いません。	5 (17.9)	8 (34.8)	13 (25.5)
3 a スキューバダイビング(アクアラングをつけて潜水する)をやってみたい。	25 (89.3)	20 (87.0)	45 (88.2)
b スキューバダイビングよりもふつうに泳ぐほうが好きです。	3 (10.7)	3 (13.0)	6 (11.8)
4 a 飛行機の操縦をしたいとは思いません。	11 (39.3)	12 (52.2)	23 (45.1)
b 飛行機の操縦をしたいと思います。	17 (60.7)	11 (47.8)	28 (54.9)
5 a 海や湖に行けば岸边で遊ぶのが好きです。	17 (60.7)	17 (73.9)	34 (66.7)
b 私は時々岸から離れて遠くまで泳いで行きたくありません。	11 (39.3)	6 (26.1)	17 (33.3)
6 a パラシュート降下を一度やってみたい。	20 (71.4)	15 (65.2)	35 (68.6)
b パラシュート降下などやりたくありません。	8 (28.6)	8 (34.8)	16 (31.4)
7 a 私は高い飛び込み台から飛び込むのが好きです。	9 (32.1)	6 (26.1)	15 (29.4)
b 私は高い飛び込み台に立ったときの感じが嫌いです。	19 (67.9)	17 (73.9)	36 (70.6)
8 a スキーで急斜面をスピードを出して滑降するのは松葉杖のやっかひになるのがおち(つね)です。	7 (25.0)	14 (60.9)	21 (41.2)
b 私はスキーで急斜面をスピードを出して滑るのが好きです。	21 (75.0)	9 (39.1)	30 (58.8)
9 a ジェットコースターのような乗り物には乗りたくありません。	6 (21.4)	6 (26.1)	12 (23.5)
b スリルを味わうためにジェットコースターのような乗り物に乗ってみたい。	22 (78.6)	17 (73.9)	39 (76.5)
10a 小さなヨットで遠洋航海するのは無謀なことです。	11 (39.3)	13 (56.5)	24 (47.1)
b 私は小さくても航海に耐えられるヨットならそのヨットで遠洋航海をしてみたいと思います。	17 (60.7)	10 (43.5)	27 (52.9)
ES (Experience Seeking)			
1 a 友人としては現実的な人が好きです。	14 (50.0)	7 (30.4)	21 (41.2)
b 芸術家やヒッピーのように現実離れた人が好きです。	14 (50.0)	16 (69.6)	30 (58.8)
2 a 旅行するとすれば先進国の方を選びたい。	16 (57.1)	10 (43.5)	26 (51.0)
b 旅行するとすればアマゾン奥地のような未開地へ旅行してみたい。	12 (42.9)	13 (56.5)	25 (49.0)
3 a 分別(ふんべつ)のある人は危険な行為を避けると思います。	5 (17.9)	7 (30.4)	12 (23.5)
b 私は時々冒険をしなくなります。	23 (82.1)	16 (69.6)	39 (76.5)
4 a よく知らない所でも一人でぶらぶらするのが好きです。	19 (67.9)	13 (56.5)	32 (62.7)
b よく知らない所は一人では不安です。	9 (32.1)	10 (43.5)	19 (37.3)
5 a 私は自分と意見が同じ人よりも異なる人と議論したい。	22 (78.6)	14 (60.9)	36 (70.6)
b 私は自分と意見が異なる人と議論をしたくありません。	6 (21.4)	9 (39.1)	15 (29.4)
6 a 安全で心配のない幸福な理想社会で暮らしてみたいと思います。	18 (64.3)	22 (95.7)	40 (78.4)
b 不安定だが変化に富んだ社会に暮らす方が良かったと思います。	10 (35.7)	1 ( 4.3)	11 (21.6)
7 a 私は登山家になりたいと思うことがよくあります。	12 (42.9)	3 (13.0)	15 (29.4)
b 私は命がけて登山する人の心がわかりません。	16 (57.1)	20 (87.0)	36 (70.6)
8 a 行き先や時刻を決めずに無計画に旅行するのが好きです。	17 (60.7)	9 (39.1)	26 (51.0)
b 旅行するときは行き先や時刻について慎重に検討します。	11 (39.3)	14 (60.9)	25 (49.0)
9 a 白熱した議論は好きではありません。	11 (39.3)	9 (39.1)	20 (39.2)
b 白熱した知的な議論が好きです。	17 (60.7)	14 (60.9)	31 (60.8)

10a	同性愛(男であれ女であれ)の人に興味が有ります。	9 (32.1)	10 (43.5)	19 (37.3)
b	同性愛の疑いのある人には興味がありません。	19 (67.9)	13 (56.5)	32 (62.7)
<b>Dis (Disinhibition)</b>				
1 a	酒を飲み過ぎて大声を出しばか騒ぎをするようなパーティーは嫌いです。	6 (21.4)	5 (21.7)	11 (21.6)
b	酒が十分あって思い切り騒げるようなパーティーが好きです。	22 (78.6)	18 (78.3)	40 (78.4)
2 a	一般的な服装をするのが良いと思います。	10 (35.7)	9 (39.1)	19 (37.3)
b	少々奇妙に見えても自分の好みにあわせた服装をするべきだと思います。	18 (64.3)	14 (60.9)	32 (62.7)
3 a	私は他人がどう反応するかを見るために時々突拍子もないことをやりたくなります。	21 (75.0)	18 (78.3)	39 (76.5)
b	私はいつも普通にふるまいます。他人を驚かせたりろうばいさせることには興味がありません。	7 (25.0)	5 (21.7)	12 (23.5)
4 a	私は軽い音楽よりもクラシック音楽の方が好きです。	2 ( 7.1)	4 (17.4)	6 (11.8)
b	私はクラシック音楽よりも軽い音楽の方が好きです。	26 (92.9)	19 (82.6)	45 (88.2)
5 a	私は不規則で不協和音の多い現代音楽は嫌いです。	4 (14.3)	4 (17.4)	8 (15.7)
b	私は不規則で不協和音の多い現代音楽を聞くのが好きです。	24 (85.7)	19 (82.6)	43 (84.3)
6 a	私は静かで穏やかな人の方が好きです。	10 (35.7)	2 (8.7)	12 (23.5)
b	私は落ち着きがなくとも感情表現の豊かな人の方が好きです。	18 (64.3)	21 (91.3)	39 (76.5)
7 a	人前で卑わいな言葉を使うのは下品だと思います。	4 (14.3)	10 (43.5)	14 (27.5)
b	私はときには卑わいな言葉を使います。	24 (85.7)	13 (56.5)	37 (72.5)
8 a	他人をびっくりさせるような言動をする人は好きではありません。	5 (17.9)	5 (21.7)	10 (19.6)
b	言動のすべてが予測できるような人にはうんざりします。	23 (82.1)	18 (78.3)	41 (80.4)
9 a	オートバイに乗る人は自分の命をそまつにする無謀な人だと思います。	2 ( 7.1)	5 (21.7)	7 (13.7)
b	オートバイに乗ってみたい。	26 (92.9)	18 (78.3)	44 (86.3)
10a	私は家の中で過ごすのが好きです。	18 (64.3)	11 (47.8)	29 (56.9)
b	私は家の中に居ると退屈してしまいます。	10 (35.7)	12 (52.2)	22 (43.1)
<b>BS (Boredom Susceptibility)</b>				
1 a	私はいつも同じ人に会っているとうんざりします。	1 ( 3.6)	1 ( 4.3)	2 ( 3.9)
b	私はいつも同じ人に会っていても楽しく過ごすことができます。	27 (96.4)	22 (95.7)	49 (96.1)
2 a	見たことのある映画を二度も見たくありません。	8 (28.6)	2 (8.7)	10 (19.6)
b	何度でも同じ映画を見ることが出来ます。	20 (71.4)	21 (91.3)	41 (80.4)
3 a	性的な関係がうまくいってればお互いに決して退屈しないと思います。	12 (42.9)	16 (69.6)	28 (54.9)
b	セックスの相手がいつも同じであればやがて退屈するのはあたりまえだと思います。	16 (57.1)	7 (30.4)	23 (45.1)
4 a	毎日決まった仕事でも楽しくできると思います。	9 (32.1)	9 (39.1)	18 (35.3)
b	毎日決まっていない変化する仕事の方が楽しいと思います。	19 (67.9)	14 (60.9)	33 (64.7)
5 a	活気のない人や退屈な人と一緒にいるのは耐えられません。	16 (57.1)	7 (30.4)	23 (45.1)
b	どんな人とでも話していれば何かおもしろい事があります。	12 (42.9)	16 (69.6)	28 (54.9)
6 a	内容が分かっているような映画や演劇は見たくありません。	12 (42.9)	8 (34.8)	20 (39.2)
b	内容が分かっているような映画や演劇でも気にせず見ます。	16 (57.1)	15 (65.2)	31 (60.8)
7 a	身体的に魅力のある異性が好きです。	10 (35.7)	5 (21.7)	15 (29.4)
b	自分と価値観が同じ異性が好きです。	18 (64.3)	18 (78.3)	36 (70.6)
8 a	結婚前のセックス体験は多い方がよい。	26 (92.9)	18 (78.3)	44 (86.3)
b	セックス体験は結婚後の方がよい。	2 ( 7.1)	5 (21.7)	7 (13.7)

(堀 洋道, 2001) このスケールそのものについての検討はここでの主目的ではないため省略したい。

Table 6 には Sensation-Seeking Scale の 4 つの因子の平均と標準偏差およびレンジを示した。

Table 6 Sensation-Seeking Scale の 4 因子の平均と標準偏差

	Mean	S.D.	range
TAS (10項目)	6.2	2.29	1-10
ES (10項目)	5.2	2.16	0- 9
Dis (10項目)	7.5	1.51	4-10
BS (8項目)	3.3	1.41	1- 6
total SSS (38項目)	22.3	4.87	11-33

Table 7 には旅行者新奇性尺度と Sensation-Seeking Scale との相関を示す。同時に各尺度の因子相互の内部相関も示してある。まず関心の対象である両尺度の相関についてみると、旅行者新奇性尺度の「スリル」は Sensation-Seeking Scale の TAS, ES, total と 0.1% レベルでの有意差が認められた。未知と遭遇することによって興奮を求めようとする点においてこれら因子は共通点をもつと考えられ、新奇性の希求は旅行場面においてのみではなく、人間のより全般的な活動領域での基本的特性であり、旅行行動においてそれがより顕在化して表れるものと解釈される。

同様のことは「日常性からの変化」についても該当する。特に TAS, Dis との相関は高い。日常からの変化を求めることは、変化によって

得られる緊張、感動、驚きなどを求めることと同義であり、また日常の慣習的、規則的なルールからの解放を求めることともつながるものと解釈される。やはり一般的な特性は旅行場面においても明瞭に反映されるものであると理解されよう。

これら「スリル」「日常性からの変化」の 2 つは BS とはほとんど 0 に近い相関しか示さなかった。さらには近似すると予想される「退屈緩和」と BS との間でさえも相関は無に等しい結果であった。「退屈緩和」の項目内容は退屈を旅行によって解消したいという内容になっていて、退屈の程度や有無にかかわらず、ともかく旅行をしたいという希望が述べられている。そのため旅行に肯定的な内容の「スリル」や「日常性からの変化」とは内部で高い有意な相関を示したことは容易に理解できる。

一方 BS の項目を検討すると、退屈を嫌うということが、忍耐力の欠如や社会的望ましきの不足、反道徳的態度、平穩さの否定などの意味をこめて表現されていて、退屈を緩和・解消する方向や手段が旅行とは異なって、必ずしも一般的に肯定は認められるものとはいえない。こうした理由から「退屈緩和」と BS との相関が極めて低いものになったと推測される。BS は TAS, ES, Dis との相関もまったく低い結果であり、そのことが因子としての独立性を示すものであるとしても社会的望ましきとしての視点から項目内容の再検討を要するのではないと思われる。

Table 7 旅行者新奇性尺度と Sensation Seeking Scale との相関

	旅行者新奇性スケール				Sensation Seeking Scale			
	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
(1) スリル	.571***	.480***	.354*	.519***	.404***	.264+	-.057	.485***
(2) 日常性からの変化		.495***	-.022	.435***	.258+	.316**	-.045	.418***
(3) 退屈緩和			.193	.119	.103	.177	.008	.148
(4) 驚き				.083	.409***	-.014	-.075	.175
(5) TAS (Thrill and Adventure Seeking)					.421***	.263+	.022	.758***
(6) ES (Experience Seeking)						.223	.110	.749***
(7) Dis (Disinhibition)							.126	.577***
(8) BS (Boredom Susceptibility)								.397***
(9) SSS total								

\*\*\*p < .001\*\* p < .01\* p < .05 +p < .10



「驚き」はESとのみ有意な相関がみられた。「驚き」は予想外、計画外の意外な驚きへの好みや期待を示すものであり、一方ESは従来の知識や常識からはずれた体験やそこでの発見、驚きを求めるものであり、どちらも未知に対する積極的態度という点で共通している。

新奇性欲求は日常の範囲を越える刺激を求めること、つまりより高い覚醒水準を求めることと考えられ、それが旅行の動機となることは理解できるが、逆に覚醒水準を下げるような、リラックスや精神的弛緩を求めたい、そのために旅行したいという反対方向の欲求も存在するであろう。Lee & Crompton (1992) は、最適覚醒水準の高い人を覚醒要求者 (arousal seeker)、その低い人を覚醒回避者 (arousal avoider) としているが、今後はこうした新奇性欲求の強弱両方向を考慮した視点からの研究が望まれる。

(要約) 旅行動機の一つとして旅行者新奇性欲求を取り上げ、その尺度の分析を通じて旅行者新奇性概念の内容を考察することを第一の目的とした。さらに Sensation-Seeking Scale と比較することによって旅行者新奇性の特徴を探ることを第二の目的とした。Lee & Crompton (1992) 作成の旅行者新奇性尺度の佐々木 (2000) による邦訳版と、Zuckerman ら (1978) 作成のスケールをもとに寺崎・塩見ら (1987) による日本語版 Sensational-Seeking Scale を私立の4年制大学の2年生51名に講義時間中に集団施行した。

その結果と考察をまとめるとつぎのようである。①旅行動機として旅行者新奇性を想定することの妥当性が確認された。②旅行者新奇性と

は精神的に新奇性を希求することであり、身体的なリスクを伴う新奇性は回避される傾向が認められた。③因子分析の結果4つの因子、「非日常の希求」(日常的経験からの離脱を求める)、「情動体験の希求」(驚きや強い刺激を求める)、「意外性の希求」(旅行中のハプニングを求める)、「スリル・危険の希求」(リスクある状況を求める)が抽出された。④一般的に感動や興奮を求める心理特性は日常生活で恒常的・潜在的に存在しており、その実現期待を旅行に焦点化したものが旅行者新奇性であると考えられた。⑤退屈を緩和するには社会的に望ましくない手段も多いが、旅行による退屈緩和は肯定的に捉えられることがわかった。⑥最適覚醒水準の視点から、旅行者新奇性という覚醒要求の側面ばかりでなく、覚醒回避の側面も含めたより総合的な研究が今後重要になるであろう。

#### 参考文献

- 前田 勇『観光とサービスの心理学』学文社、1999。  
宮原英種・宮原和子『観光心理学を愉しむ』ナカニシヤ出版、1999。  
佐々木 土師二『旅行者行動の心理学』関西大学出版部、2000。  
Tae-Hee Lee & Crompton, J. Measuring Novelty Seeking in Tourism, *Annals of Tourism Research*, vol.19, 1992, 732-751.  
寺崎・塩見・岸本・平岡『日本語版 Sensation-Seeking Scale, 1987』  
堀 洋道監修『心理測定尺度集Ⅱ』サイエンス社、2001年。

(2002年11月13日受付)